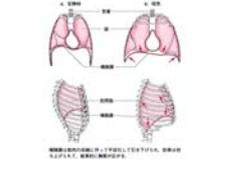


成人看護学⑤

リハビリテーション看護

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
<p>関節可動域訓練 (ROM 訓練) (6分 35秒)</p> <p>🔊</p>		<p>ROM 訓練は、固縮した関節運動の改善や拘縮予防のために行われる。無理な運動をして脱臼や骨折を引き起こさないように注意することが大切である。</p>	<p>1章 リハビリテーション看護とは 4節 時期および目的からみたリハビリテーション看護 1項 予防的リハビリテーションにおける看護</p>
<p>嚥下リハビリテーション (7分 53秒)</p> <p>🔊</p>		<p>摂食・嚥下には 30 種類以上の筋や神経が協調して関与している。これらの機能回復を図るため、リラクゼーション、マッサージ、構音訓練などの嚥下リハビリテーションを実施する。</p>	<p>1章 リハビリテーション看護とは 4節 時期および目的からみたリハビリテーション看護 1項 予防的リハビリテーションにおける看護</p>
<p>セルフケア再獲得モデル (7分 16秒)</p> <p>🔊</p>		<p>セルフケア再獲得モデルは、生命維持レベルのセルフケア、生活基本行動レベルのセルフケア、社会生活レベルのセルフケアの 3 つの異なる次元のセルフケアの存在をもとに分類したものである。</p>	<p>1章 リハビリテーション看護とは 5節 リハビリテーションに用いられる主要な概念 6項 セルフケア</p>
<p>脳梗塞患者の看護 (失語症) (2分 35秒)</p> <p>🔊</p>		<p>脳梗塞患者とのコミュニケーションのとりかたの例を提示し、看護のポイントを紹介する。</p>	<p>2章 チームアプローチと看護師の役割 1節 リハビリテーション関連職種によるチームアプローチ 3項 リハビリテーション関連職種によるチームアプローチ</p>
<p>ALS 患者からのメッセージ (6分 40秒)</p> <p>🔊</p>		<p>東京都に住む佐々木公一さんは、現在 67 歳で、40 代後半から ALS を患っている。「工夫して頑張れば何でもできる、このことを広く訴えたい」と語る。</p>	<p>3章 生活の再構築に向けた援助（支援） 2節 生活の再構築のための支援 1項 活動・参加促進に向けた ADL 支援</p>
<p>福祉機器の一例 (3分 29秒)</p> <p>🔊</p>		<p>ALS 患者・佐々木公一さんが用いる福祉機器、特にコミュニケーション機器とそれらを利用した生活を紹介する。</p>	<p>3章 生活の再構築に向けた援助（支援） 2節 生活の再構築のための支援 1項 活動・参加促進に向けた ADL 支援</p>
<p>歩行補助具 (5分 57秒)</p> <p>🔊</p>		<p>歩行を補助する「車椅子」「歩行器」「杖」について、障害と ADL を照らし合わせた適切な導入と使い方を紹介する。</p>	<p>3章 生活の再構築に向けた援助（支援） 2節 生活の再構築のための支援 1項 活動・参加促進に向けた ADL 支援</p>

リハビリテーション看護

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
<p>依存による自立 (9分40秒)</p> <p>🔊</p>		<p>交通事故により車椅子生活となった事例をもとに、地域の中で独立した生活を送っている様子を紹介する。</p>	<p>3章 生活の再構築に向けた援助（支援） 2節 生活の再構築のための支援 2項 社会生活の適応に向けた心理的支援</p>
<p>右麻痺患者のADL支援 (ベッドから車椅子への移乗) (2分33秒)</p> <p>🔊</p>		<p>右片麻痺患者のベッドから車椅子への移乗を支援する。</p>	<p>3章 生活の再構築に向けた援助（支援） 2節 生活の再構築のための支援 3項 健康維持のための支援</p>
<p>日常生活自立支援事業 (4分59秒)</p> <p>🔊</p>		<p>認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等で、判断能力が不十分な人に地域において自立した生活を送れるよう、福祉サービスの利用援助等を行う日常生活自立支援事業の概要について解説する。</p>	<p>5章 地域で暮らすことを支える法律やサービス 4節 障害者を支えるサービス 2項 障害者自立支援法から障害者総合支援法へ</p>
<p>呼吸と横隔膜 (15秒)</p> <p>🔊</p>		<p>横隔膜と肋間筋が同期して収縮すると、胸壁が広がって胸腔の前後径が増大し、横隔膜は下方に動いて胸腔が上下に広がるため、胸腔の容積が増す。安静時と吸気時の肺と横隔膜の動きに注目。</p>	<p>6章 ICFの枠組みを用いた対象理解と援助 1節 アセスメントの枠組み 1項 心理機能と身体構造</p>
<p>心臓 (57秒)</p> <p>🔊</p>		<p>3D 人体映像</p>	<p>6章 ICFの枠組みを用いた対象理解と援助 1節 アセスメントの枠組み 1項 心理機能と身体構造</p>
<p>呼吸と嚥下 (48秒)</p> <p>🔊</p>		<p>口腔から咽頭までの間は、呼吸のためのはたらきと摂食・嚥下のためのはたらきの両方の機能を有している。呼吸と嚥下、それぞれの動きを理解しよう。</p>	<p>6章 ICFの枠組みを用いた対象理解と援助 1節 アセスメントの枠組み 1項 心理機能と身体構造</p>
<p>摂食嚥下障害のスクリーニングテスト (6分21秒)</p> <p>🔊</p>		<p>摂食嚥下障害のアセスメントの一つとして、摂食嚥下プロセスを観察する必要がある。摂食嚥下プロセスの障害の有無を確認するためのスクリーニングテスト（反復唾液嚥下テスト、改訂水飲みテスト、フードテスト）の方法を紹介する。</p>	<p>6章 ICFの枠組みを用いた対象理解と援助 1節 アセスメントの枠組み 1項 心理機能と身体構造</p>

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
腎臓の働きと腎不全に関する基礎知識 (2分54秒)		腎臓の四つの働き（体液の恒常性の維持、血圧の調節、エリスロポエチンの産生、ビタミンDの活性化）について解説する。前2者が障害された場合は透析治療で解決でき、後2者に対しては製剤の投与が治療法となる。	6章 ICFの枠組みを用いた対象理解と援助 1節 アセスメントの枠組み 1項 心理機能と身体構造
移動に関わる機能のアセスメント (7分36秒)		90代女性を例に、関節の動き（関節可動域）や体の動き（下肢の機能評価）についてのアセスメントを行う。	6章 ICFの枠組みを用いた対象理解と援助 1節 アセスメントの枠組み 2項 活動
生活内容・健康状態のアセスメント (14分7秒)		90代女性を例に、日頃の生活の様子（食事や清潔、排泄など）や健康状態についてのアセスメントを行う。	6章 ICFの枠組みを用いた対象理解と援助 1節 アセスメントの枠組み 4項 背景因子
問題解決型思考と目標指向型思考 (4分33秒)		現状を改善するためのアプローチとして用いられる「問題解決型思考」と「目標指向型思考」、それぞれの思考のプロセスの違いについて、イメージしやすい事例を用いて解説する。	6章 ICFの枠組みを用いた対象理解と援助 2節 問題・課題の抽出から援助と評価 1項 問題・課題の抽出
右麻痺患者のADL支援（更衣） (3分13秒)		右片麻痺患者の更衣を支援する。	6章 ICFの枠組みを用いた対象理解と援助 2節 問題・課題の抽出から援助と評価 1項 問題・課題の抽出
脊髄（頸髄）損傷患者の更衣 (8分10秒)		45歳男性の頸髄損傷患者（C6損傷）をモデルとして、更衣の介助の実際を紹介する。	7章 事例で学ぶICFの枠組みを用いた看護の展開 2節 脊髄損傷患者の回復期リハビリテーション
嚥下障害（嚥下造影検査；VF） (54秒)		嚥下の正常例と咽頭期嚥下障害のX線画像を提示する。	7章 事例で学ぶICFの枠組みを用いた看護の展開 5節 がん患者の終末期（ターミナル期）リハビリテーション

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
摂食困難なときの食事 (9分1秒) 音声		嚥下機能に合わせた調理方法を行うための便利な調理器具を紹介、嚥下機能に合わせた調理方法や献立を紹介する。	7章 事例で学ぶ ICF の枠組みを用いた看護の展開 5節 がん患者の終末期（ターミナル期）リハビリテーション 3項 看護の実際
脳卒中急性期にある人の看護 (8分) 音声		茨城県の大学附属病院の急性期看護の一例を紹介する。ここでは脳卒中急性期の患者に対する看護について取り上げる。	7章 事例で学ぶ ICF の枠組みを用いた看護の展開 6節 脳血管疾患患者の急性期から回復期・生活期リハビリテーション 1項 はじめに
脳卒中回復期にある人の看護 (4分25秒) 音声		脳卒中回復期にある患者への看護について、リハビリテーションチームとの連携やセルフケア再獲得に向けた関わりを提示する。	7章 事例で学ぶ ICF の枠組みを用いた看護の展開 6節 脳血管疾患患者の急性期から回復期・生活期リハビリテーション 1項 はじめに
脳卒中家庭復帰期にある人の看護 (8分25秒) 音声		社会生活レベルのセルフケア再獲得段階である脳卒中家庭復帰期の患者とその家族へのサポートを紹介する。	7章 事例で学ぶ ICF の枠組みを用いた看護の展開 6節 脳血管疾患患者の急性期から回復期・生活期リハビリテーション 1項 はじめに